

# 1. 概要

---

## 1.1. 背景、目的

和歌山市水辺空間を生かしたまちづくり手法検討・調査業務は、平成 28 年度はじまり、今年度が 2 年目である。今年度は前年度の検討・調査結果をもとに計画をし、事業をおこなった。

和歌山市の市街地を流れる 5 つの川、有本川、大門川、和歌川、真田堀川、市堀川。和歌山の外堀として形成されたこれらの川は、かつては泳げるほどきれいで、荷物を積んだ船や屋形船が行き交い、水辺には市場や夜店が開かれるなど和歌山の環境、歴史、文化にとってとても重要な役割を果たしてきた。しかし、産業優先の政策、都市部のスプロール化などによって水質が悪化した高度経済成長期以降、川はまちの裏側へおしやられる形となり、長い間、市民にも隣接する建物にも背を向けられる存在となっていた。

しかしながら、近年では継続的に取り組んできた人々の努力により、川の水質が徐々に改善されたことで、水辺に再び価値を見出し活用しようとする機運が高まりつつあった。

特に市堀川はかつての和歌山城の外堀のなかでも、京橋御門などを擁しまちなかの歴史的な水辺資源と考えられるが、あまり有効に活用されていない。しかし、最近になって舟運やカヌー体験、清掃活動やマーケット事業など、民間による活用が次第に行われてきており、分断されていた「かわ」と「まち」をつなげる良好な回遊軸が編成されつつある。そのような機運を受け、市堀川が持つ魅力を検証し、水辺空間を活かした、市内外のひとにとって魅力に満ち、訪れたいくなるような潤いのあるまちづくりを官民が連携した視点で行うことができないかと検討してきた。

今年度は、水辺利活用の有用性を地域の合意形成を図りつつ検証し、水辺の将来性を確認するためのミズベ会議を実施し、地域の主体とともに作りあげた社会実験の計画をもとに、実現可能な社会実験イベントを実施し、前年度構想した活性化の方策が実際実現するとどのような結果になるのかをアンケートや実態把握などを通して調査した。

また、水辺のまちづくりの意義を話し合う「水辺意見交換会」を実施し、地域の人々の意見を話し、また他都市の事例をもとに和歌山でできることはなにかを考える機会をつくった。

水辺交流会では、和歌山の社会実験で得られた成果を報告し、水辺が持つポテンシャルと実施したことのでわかった和歌山の中心市街地の実態などを話し合い、中心市街地が今後どのような価値をもつ場所になるのか、そのために和歌山の水辺はどのような場所になったらいいのかを、ゲストのレクチャーを踏まえて考えた。

本年度の検討・調査を踏まえ、和歌山の中心市街地がかかえる問題点があらためて浮き彫りになった。その課題を正確にとらえつつ、官民連携だからこそできる、まだ社会実験で検証されていない事項を来年度以降どのように実施するべきかをまとめた。

昨年度以降、水辺に関心をもつ人々が徐々にふえつつある機会に『わかやま水辺プロジェクト』が発足し、情報発信、ワークショップやシンポジウムの実施主体として市民とともに水辺のあり方を模索してきた。官民の垣根を越え、私たちの大切な資源である水辺と一緒に魅力的にしていくため、和歌山の創造的水辺の未来をさらに具体的に官民の垣根を越えて検証し、発展させていく。

## 1.2. 経緯

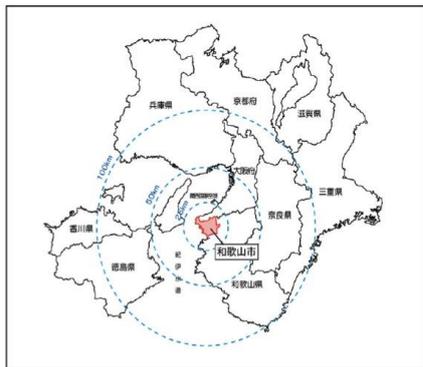
昨年度の検討・調査業務は、市内の概況調査、環境調査を行い、市民ワークショップによって、未来のビジョンを抽出し、そこに向けた方策と成果指標を抽出した上で、次年度行うべき社会実験のあり方を検討した。

### 1.2.1. 和歌山市内における中心市街地の現状把握

#### 和歌山市の概要と課題

和歌山県の北西端に位置  
 ・大阪中心部から鉄道or高速道路で約1時間 関西国際空港から同約30分  
 ・県東端の新宮市まで約3時間 白浜町まで約1時間半

和歌山市における水辺とまちのリノベーション



和歌山市の位置図



和歌山城



和歌浦（夕日百選）



友ヶ島（砲台跡）



片男波



雑賀崎



紀ノ川

面積	距離	海拔
208.84 km <sup>2</sup>	東西 29.0 km 南北 17.5 km	最高 490.2m 最低 0.6m

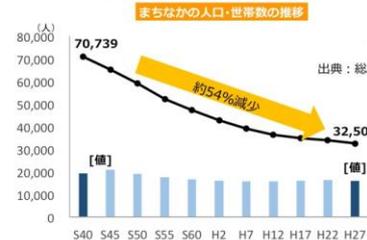
資料：和歌山市統計資料

和歌山市の位置付けは和歌山県における北端で、和歌山城のほかいくつかの景勝地、訪問先で知られる。

#### 和歌山市の概要と課題

市全体やまちなかの人口減少、まちなかのドーナツ化による賑わいの低下などの課題を抱えている。

和歌山市における水辺とまちのリノベーション



人口  
 世帯数  
 出典：総務省「国勢調査」

昭和35年  
人口集中地区

平成22年  
人口集中地区

まちなかの賑わい低下



昭和40年代の賑わい



近年のシャッター商店街化

市内全域の人口減少は昭和 60 年をピークに H27 年までで 9%減少しているのに対して、中心市街地だけ見ると 54%も減っており、ぶらくり丁商店街の変化の激しさを物語っている。人口集中地区が 3 倍に拡大したことから、ドーナツ化現象がはっきり見て取れる。

# 和歌山市の概要と課題

大学進学や就職を契機とした若者の流出による生産年齢人口の減少などの課題を抱えている。

和歌山市における水辺とまちのリノベーション

## 若者の人口流出

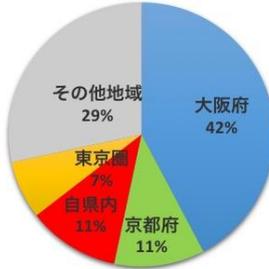


順位	都道府県	県外大学進学率(%)
	全国	56.4
1	和歌山	89.6
2	佐賀	86.2
3	島根	85.6
45	東京	34.6
46	北海道	31.7
47	愛知	28.0

(平成27年度学校基本調査)

和歌山には大学が少ないため、約9割が県外の大学に進学(県外大学進学率全国ワースト1)

## 和歌山県の高校卒業者の大学進学 (H28年度)



自県進学率  
全国最下位

出典：文部科学省「学校基本統計」

## 都道府県別大学進学者収容力 (H27年度)



出典：地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議資料  
大学進学者収容力 = (各県の大学入学定員 / 各県に所在する高校の卒業者のうち大学進学者の数) × 100

若年世代の人口流出が課題であるなか、和歌山市では中心地区に大学を3つ誘致、無秩序な周辺市街地の開発抑制などのコンパクトシティ化政策を積極的に行い、改善をはかっている。

また、リノベーションまちづくりを推進し、まちなかにあらたなコンテンツを官民連携して増やしてきた。

スクールでまちづくりの担手を育成し、5社のまちづくり会社が設立。今年度都市再生推進法人に指定し、更なる深化を目指す。市街地再開発事業とエリアリノベーション、公共空間活用を組合せ、まちなかの回遊性を高め、エリアの課題解決・価値向上を図る。

### スクール提案の事業化

- 農園レストラン 石高ボロ口
- シェアハウス RICO HOUSE
- ゲストハウス RICO
- 日本酒バー 水辺座
- カフェ Cafe 29
- 焼肉屋 meat×meet
- ゲストハウス Sana Inn Town

### 受講生が関わった事業化

- 野菜スイーツとパンのお店 almo
- ギャラリー almoギャラリー
- ゲストハウス macomo
- 本屋、カフェ 本屋フラグ
- 子供向け教室 Petersox
- 設計事務所 SIMS建築設計
- おにぎり屋 むすび家
- アメリカ直輸入服飾店 New York Storage
- ボディデザイン専門店 Best1
- コワーキングスペース Luida

### 受講生が関わったイベント

- ボロ口ハスマーケット
- クラフト×暮らしとビールフェス
- ミートフェス

### 家守会社

- 株式会社 sasquatch
- 株式会社 まちづくり会
- 株式会社 やまやま
- 株式会社 クリエティブ
- 株式会社 家守会

### 青丸是水辺の物件がリノベーションされた事例

スクール対象物件の事業化 ▶ 7件  
家守会社等が関わった事業 ▶ 10件  
スクール物件に関連するイベントの開催 ▶ 3件

リノベーションまちづくりでは、水辺が課題にあげられることもあり、数々のスケッチやパースが事業計画とともに生み出されてきた。

- H26.2 第1回リノベーションスクール（事業計画コース3案件） ◀ 1件
- H26.10～11 第2回リノベーションスクール（事業計画コース4案件）
- H27.11 第3回リノベーションスクール（事業計画コース4案件） ◀ 2件
- H28.3 第4回リノベーションスクール（DIYコース2案件）
- H28.11 第5回リノベーションスクール（事業計画コース3案件 ◀ 1件  
DIYコース1案件）（水辺の実事業化件数）



11

また、実際にリノベーションスクールによって生み出された案件で、全国的にも注目されている「水辺座」は、あらたなコンテンツとして耳目を集めている。

水辺座



リノベーションまちづくりで、水辺が注目を集めたことが、水辺のまちづくりの機運を高めることの一助になったことは間違いない。

河川の環境改善や活用を推進する民間の活動 和歌山市における水辺とまちのリノベーション



内川をきれいにする会

1967年～



ミズベリング和歌山

2014年10月～



ポポロハスマーケット & カヌー体験CF

2014年10月、2016年9月



内川浄化で街に誇りを  
水辺をかし市街地活性化

2014年10月

市堀川をはじめ、内川は、これまでもさまざまな関心をあつめてきた。2017年に50周年をむかえた、内川をきれいにする会の活動をはじめ、さまざまな主体が川を綺麗にする活動や使いこなす活動を行ってきた。これらの活動や、市の政策をうけて、本事業ははじまった。

1.2.2. 水辺のまちづくりの推進方法

## 和歌山の水辺とまちに必要な政策を策定するための4つのステップとそのループ

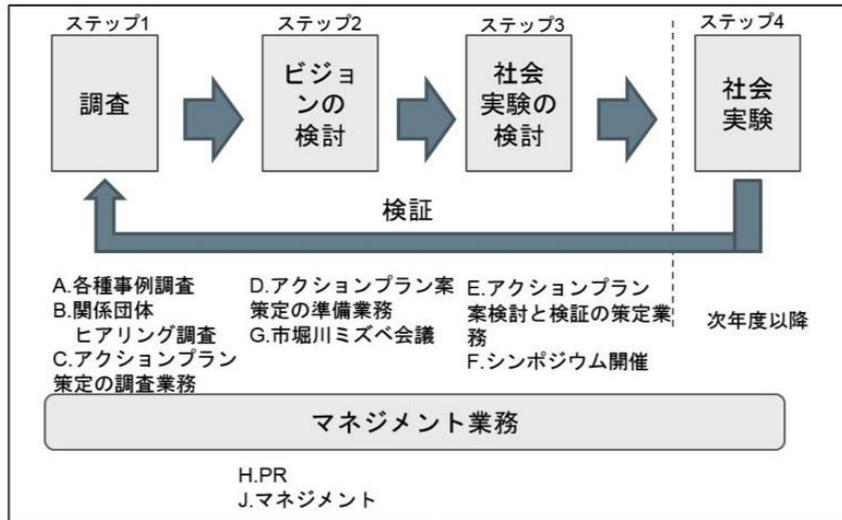


図1.業務の全体構造

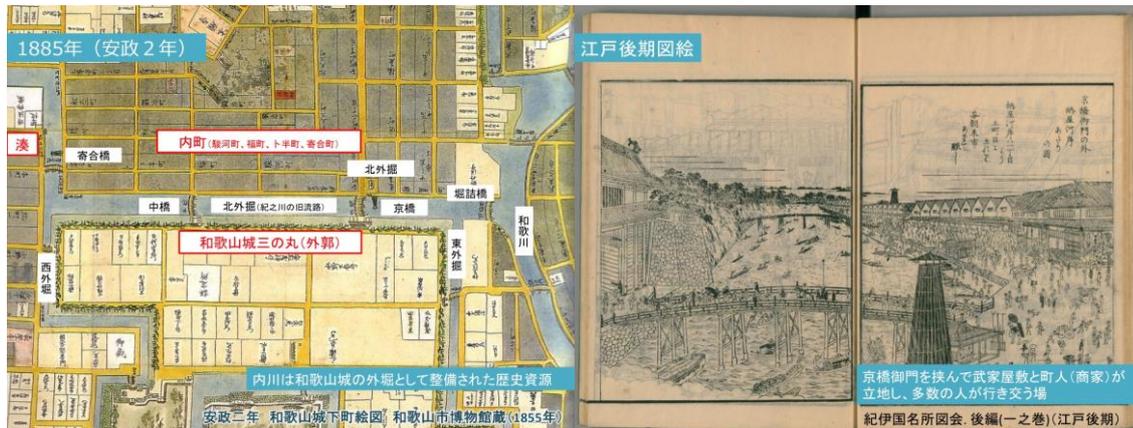
- ステップ1. 調査: 現状把握、他の事例の調査、市内のステークホルダー調査  
 ステップ2. ビジョンの検討: アクションプラン準備、検討  
 ステップ3. 社会実験の策定: 社会実験のアクションプランと検証の策定  
 ステップ4. 社会実験  
 ↳ステップ1. 調査にもどり、また繰り返す

本プロジェクトにおいて、プロジェクトの推進は、上記の図の通り、4つのステップ（調査→ビジョンの検討→社会実験の検討→社会実験の実施→検証）とそのループによって行われることが望ましい。平成28年度の調査では、このステップ3までを行ったが、本年度（平成29年度）は、ステップ4が行われ、その検証が行われることがもとめられる。

### 1.2.3. 調査フェーズ：水辺のまちづくりをすすめるにあたって調べた水辺の環境調査

和歌山の水辺を把握するために以下の調査を行った。

1. 来歴調査
2. 環境調査
3. 利便施設調査
4. 水辺の遊休公共資産調査
5. 来街者分析
6. ステークホルダー分析
7. 治水管理者の調査



左：安政2年の絵図。和歌山城の外堀であることがよくわかる。

右：紀伊国名所図会。広小路と並行して堀がながれていて、その間が荷揚げ場になっていたことがわかる。荷物の集積とともに、人々の往来の多さが見てとれる。



左：名所図会からは、川のそばの荷揚げ場側に建てられた小屋群で商いが行われていたさまが見て取れる。現在の利用は、これらの建築未満の工作物群だった時代から、コンクリート造の堅固な建物群に変わっている。

右：戦後は、木材の貯木場として使われ、また食文化を育んでいた。

## 内川について

昭和24年 和歌浦の海苔の枯死問題  
昭和45年 BODが391.0mg/lに達し、「死の川」の様相となる



図 1.3.3.5 和歌川ヘドロ堆積 高千穂橋下流付近



図 1.3.3.6 和歌川ヘドロ堆積 小笠原橋仮堰上流付近

和歌山市における水辺とまちのリノベーション

昭和40年代の和歌川



図 1.3.3.7 和歌川ヘドロ堆積

皮革工場や染色工場の排水などにより、急激に環境が悪化した内川

市内川とまちについて分かったこと  
一環統一

紀の川および和歌浦からの導水、ヘドロ浚渫、下水道の整備、色条例規制による、総合的な水質改善の取り組みが行われてきた。

- ・国・県・市が連携して取り組みを実施
- 国:紀の川からの浄化用水
- 県:和歌浦からの浄化用水、和歌川の底泥浚渫(第1~4期)
- 市:下水道の整備、排水の色等規制条例の施行
- ・住民活動
- 市民団体の結成、美化・啓発活動の実施



左：内川は昭和 40 年代に非常に汚染が進んだ。その後工場の排水の規制強化、下水整備などによってやや改善した。

右：内川に国、県、市が連携して導水事業を行った結果、希釈され一定の効果をあげている。また、住民の啓発活動も盛ん。

## 内川について

県による整備(1998年(平成10年))

和歌山市における水辺とまちのリノベーション

平成 10 年にアQUALネッサンス事業（県）によって、環境整備がなされ、現在の姿になった。それから 20 年を経て、その使いこなしを市民が考える機会が今回の水辺のまちづくりの位置付けである。

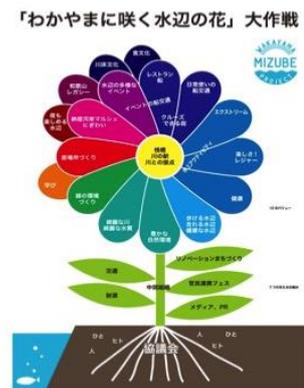
## 1.2.4. ビジョン検討フェーズ



“和歌山らしい水辺”  
“和歌山に必要な水辺”

和歌山らしい水辺、和歌山に必要な水辺を、和歌山のひとたちで話し合っって検討するワークショップを多数開催した。

- 1.水辺のありかたを議論する場:ミズベ会議、水辺シンポジウム等の概要
2. 12のバリューと8つの支える仕組み
- 3.ペルソナ
- 4.タスクフォース



- 2016年12月19日 WAKAYAMA MIZUBE DRINKS 開催  
ペチャクチャ方式によるステークホルダーのプレゼン大会を行った。また大阪より泉英明氏をお呼びし、大阪において水辺のまちづくりがどのようにスタートしたのかをお話いただいた。
- 2017年1月25日 第一回ミズベ会議開催  
市民が和歌山らしいミズベとはなにかをテーマにワークショップを開催。12このバリューを生み出した  
水都大阪から松本拓氏をお呼びし、講演していただいた。
- 2017年2月10日 第二回ミズベ会議  
第一回に話された内容を整理してフィードバックし、さらにどのような使われ方が想定できるか、

ペルソナとシーンを考えてもらった。タクティカルアーバニズムについて、泉山墨威氏にお話いただいた

• 2017年3月12日 水辺シンポジウム

東ぶらくり丁の道路上で、シンポジウムを開催。和歌山の水辺でどのようなまとめがおこなわれてきたのかを市民に共有。また東京大学公共政策大学院の辻田昌弘特任教授にお越しいただき、オープンイノベーションについておはなしいただいた。またミズベリングを推進する国土交通省河川環境課の田中里佳課長補佐（当時）にお越しいただき、ミズベリングの意義についてお話いただいた  
 タスクフォースの発表を行った

1.2.5. 12のバリュー

## 水辺に求める12の価値

<p><b>1</b> きれいな川、綺麗な水にしたい 豊かな自然環境にしたい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さわれる</li> <li>・おどける</li> <li>・魚釣りが楽しめる</li> <li>・流れがある</li> </ul> 	<p><b>2</b> 居場所作り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子</li> <li>・ランドバイクもって遊べる</li> <li>・子供が安全に遊べる</li> <li>・夜もほほえみになる場所</li> </ul> 	<p><b>3</b> クルーズができる楽しめる街にしたい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの船交通</li> <li>・レストラン船などの日常利用</li> <li>・日常使いの船交通</li> </ul> 
<p><b>4</b> 緑の環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三生の広場</li> <li>・野花</li> <li>・桜を眺める</li> <li>・食べられるガーデン</li> </ul> 	<p><b>5</b> 水上アクティビティがある街にしたい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SUP、カヌーなどの手造り</li> <li>・スワンボート、貸しボート</li> <li>・ウォーターポール</li> <li>・ジェット、パワーボート、料亭へ</li> </ul> 	<p><b>6</b> 納屋河岸マルシェのにぎわいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的なマルシェのあり方が</li> <li>・日常的なマルシェ開発</li> <li>・集いの商業にも絆を育む</li> </ul> 
<p><b>7</b> 歩ける水辺、走れる水辺、健康な水辺</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最新ウォーキング</li> <li>・ウォーキングをしたくなる環境整備</li> <li>・フットパスを駅車にもつなげて整備</li> <li>・日常でつかえる水辺の道</li> </ul> 	<p><b>8</b> いろんなイベントがおこなわれる水辺であってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花火、映画観賞</li> <li>・フェス、食フェス</li> <li>・水上パレード</li> </ul> 	<p><b>9</b> 食文化が育まれる水辺</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フードカー</li> <li>・川床料理</li> <li>・お祭り</li> <li>・ファンガーフード</li> </ul> 
<p><b>10</b> 和歌山レガシー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山の歴史とつなげる</li> <li>・未来に送った水辺のあたらしい家</li> <li>・和歌山城とつなげる</li> </ul> 	<p><b>11</b> 夜も楽しめる水辺</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲み屋、BAR</li> <li>・夜も開き</li> </ul> 	<p><b>12</b> 学び</p> 

和歌山の人々がワークショップでまとめた、和歌山の水辺で大切にしたい価値観（バリュー）は12

に分類することができた。

### 1.2.6. 8つの仕組み



ワークショップで登壇していただいた方々の講演などをまとめ、8つの仕組みをうまく活用して、水辺のまちづくりを推進する必要があるということを明らかにした。



## 1.2.8. タスクフォース

### タスクフォース

ワークショップ参加者のなかから、水辺での主体的な活動イメージが導き出された

#1 **#棧橋アクティビティ・タスクフォース**



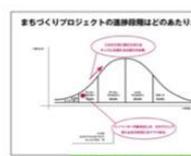
棧橋ができたときに、それをどうつかいになるか、ということを考えるタスクフォース

**MEMBER**  
山本賢司さん(杏亭)  
吉川誠人さん(紀州まちづくり会)  
大江オーウェン亮輔

#4 **#PRタスクフォース**

水辺の価値を高めるために、どうメディア戦略を主体的に考えるタスクフォース

まもつくりプロジェクトの連携経路はどのあたりか?



300名以上のユーザーの集結

**メディアの取材対象「キャラクター」の育成が重要!**

**MEMBER**  
下方 智司さん  
林 郁恵さん(まいごれ)  
若本 唯史さん(水辺総研)

#7 **#酒蔵タスクフォース**

酒蔵の集客能力を最大化して、和歌山にあらたなコンテンツと風景を創出するための水辺の官民連携タスクフォース



**MEMBER**  
吉川誠人さん(紀州まちづくり会)  
三浦研祐さん(紀州まちづくり会)  
若本 唯史さん(水辺総研)  
南方 雅博さん(世界一統)

#2 **#船タスクフォース**



内川に船を日常的に浮かべさせるためのタスクフォース

まちの飲食店のクーポンと船のクーポンをくみあわせて、まちなかにイベント! 船に乗って外食、飲みに駆けつけよう!

**MEMBER**  
宮藤崇さん(ゲストハウスRICO)  
豊田英三さん(ユタカ交通)  
島美雄さん(株式会社メガチューブ)  
瀧しろうさん  
武内淳さん(水辺座)

#5 **#河川占有タスクフォース**



河川の規制緩和を仕組み化して、ゆたかな公共空間を創出するタスクフォース

**MEMBER**  
小堀さん(GRASS)  
瀧しろうさん(NUMERO 11)  
若本 唯史さん(水辺総研)  
山本賢司さん(杏亭)  
吉川誠人さん(紀州まちづくり会)

#8 **#水辺の食文化復活タスクフォース**

水辺のまちで食・歩きができるようにして、美術館が癒え、滞留時間をふやす(伝統的組織を復活させる)タスクフォース



民間の広場を、社構カフェ!

**MEMBER**  
吉川誠人さん(紀州まちづくり会)  
三浦研祐さん(紀州まちづくり会)  
若本 唯史さん(水辺総研)

#3 **#川床タスクフォース**



個人の飲食店の川側をゆたかな空間にして和歌山の川の魅力を創出するタスクフォース

百軒を水辺に集めて飲食店が立ち並ぶ

**MEMBER**  
瀧しろうさん  
武内淳さん(水辺座)  
若西 智宏さん(アトリエグリッドー建築士事務所)  
依岡晋明さん(誠善建設)

#6 **#魚河岸タスクフォース**

近畿にしかないマルシェを研究し、地域の魚を中心!



漁港のポテンシャルコンテンツを水辺の広場で実現するタスクフォース

**MEMBER**  
池田 佳祐さん(雑貨崎住人)  
武内 淳さん(水辺座)

#9 **#遊覧船タスクフォース**

和歌山城の遊覧船のアイドルタイムをつかって、市堀川で遊覧船実験するタスクフォース



市堀川での船を、もっと楽しむためのタスクフォース

**MEMBER**  
吉川誠人さん(紀州まちづくり会)  
野井 和重(内川をきれいにする会)

ワークショップ参加者らとともに、実際に自分が関わるとしたら、どのようなプロジェクトに参画するか検討いただき、アイデアをまとめた。

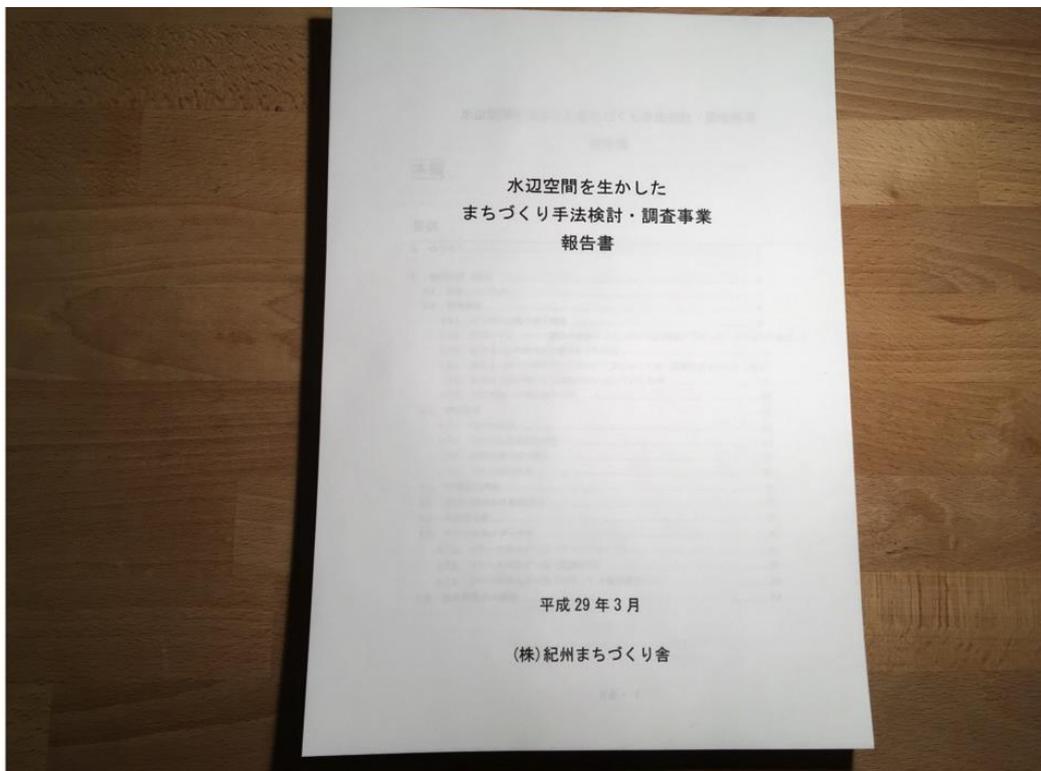


### 1.2.10. 事例調査



## 官民連携、賑わい創造、公共空間活用における日本全国の事例調査。

全国の官民連携、賑わい想像、公共空間活用、水辺空間活用における事例を調査した。



平成 29 年 3 月にとりまとめた報告書をもとに、今年度どのような社会実験を行うべきか、どのような社会実験なら実現可能かを関係機関と相談し、今年度実施した。